

No.118
2014
Autumn

Hachinohe
Institute
of
Technology
Press
SOUKYU

蒼穹

学校法人八戸工業大学 広報

H. I. T. Communication



CONTENTS

八戸工業大学

- p2-3 工大祭・秋のオープンキャンパス・卓球部東北秋季リーグ戦3連覇・文部科学省大学教育再生加速プログラムに採択・八戸市と連携協定締結・学生チャレンジプロジェクト
- p4-5 きものデザインコンクール・日本酒干支ラベル・アーチェリーインカレ出場・中国語研修・木匠塾・手作り自動車省燃費競技大会・青少年のための科学の祭典・大学生観光まちづくりコンテスト・青森県総合防災訓練・杉の間伐に挑戦
- p6-7 雪氷研究大会・保護者後援会・教職員研修会・受賞・オープンキャンパス・同窓生の集う会・資格取得・入試日程・行事予定

- p8-9 **カラーページ**
ばんきいっぱい!! さくらようちえん

八戸工業大学第一高等学校

- p10-11 体育祭・プチ高校生・全国高総文祭・全国高総体・学年統一行事・小型人工衛星打ち上げプロジェクト協力校に認定・アイスホッケー部全国私立高校選抜大会初優勝・ボランティア活動

八戸工業大学第二高等学校

- p12-13 夏の学外学習（つくばイノベーション・インターンシップ）・ボランティア活動（鯨地区・陸前高田市）・全国高総文祭・大学連携授業（八戸工大・東北芸工大）・中国語研修

さくら幼稚園

- p14-15 なかよしさい・みどりの風・ようちえんってこんなところ・園児募集
- p16 理事会・評議員会報告

2014 工大祭 10月11日(sat) 12日(sun)

テーマ 「COLORS」
～すべての人の、すべての色を～

10月11日・12日、第42回八戸工業大学学園祭「工大祭」が開催された。テーマは、「COLORS」。個性あふれる学生を様々な色に見立て、その色の輝きを見て欲しいという意味が込められた。

今年は絶好の秋日和となり、キャンパスには2日間で延べ3,000人の来場者があった。運動部の模擬店が並ぶメインストリートは、学生達の呼び込みの声や笑い声であふれ、訪れた人々は各学科の研究室や文化部の活動を紹介するコーナーを巡ったり、特設ステージでのゲームやパフォーマンスなどのイベントを楽しんでいた。



「秋のオープンキャンパス」を同日開催

本学では、今年から学園祭に合わせて「秋のオープンキャンパス」を開催した。参加した高校生と保護者は、学生生活や学科での勉強内容などについて、学生スタッフと和やかに歓談。また、初めて実施した「推薦・AO入試対策講座」では、メモを取りながら真剣な表情で聴講していた。



卓球部が秋季リーグ戦3連覇達成!!



8月18日～20日、花巻市総合体育館を会場に平成26年度東北学生卓球連盟秋季リーグ戦兼全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）予選会が行われ、本学卓球部が春季リーグでの優勝に続き5戦全勝で秋季リーグ3連覇を達成した。

本学卓球部は、ケガで主力選手が出場できない中、チーム全員高い意識を持って更に練習時間を増やして大会に臨み、

優勝を春季リーグ戦と同じ東北福祉大と争い、この対戦相手に4対3で勝利し優勝を勝ち取った。「私はコーチ1年目ですが、本学チームの底力に驚かされました。学生達に負けないよう日々成長し、もっと優勝の喜びを共有したいです。」と中村優孝コーチは話す。リーグ戦後に行われた予選会のダブルスに出場した2組とシングルスに出場した6名が予選を通過し、本学チームは7名が10月23日から名古屋市で開催される全日本総合卓球選手権大会（個人の部）の出場権を獲得した。

◇全日本出場選手【ダブルス】中村駿介（機械情報技術学科2年／弘前実業高）相良友樹（同2年／北海道・札幌龍谷学園）組、吉野裕規（バイオ環境工学科4年／北海道・北見柏陽高）松浦善幸（システム情報工学科4年／福島・小野高）組（東北学生連盟推薦）【シングルス】松浦善幸、小館卓司（電気電子システム学科3年／弘前工高）、江馬健史（機械情報技術学科2年／北海道・駒大苫小牧高）、星山大地（電気電子システム学科2年／福島・福島工高）、吉野裕規（東北学生連盟推薦）、相良友樹（同）

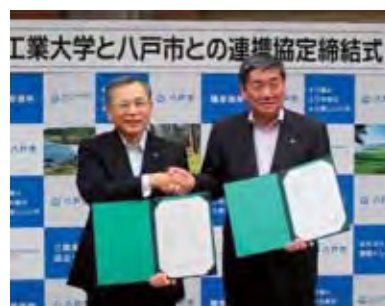
文部科学省「平成26年度大学教育再生加速プログラム」に採択

文部科学省の新規事業「大学教育再生加速プログラム」（AP：Acceleration Program for University Education Rebuilding）に、本学が提案した教育改革への取り組みが採択された。

この事業は、国として進めるべき大学改革を一層推進するために、教育再生実行会議等で示された先進的な取り組みを実施する国公立大学、短大、高専を選定し重点的に支援するものである。事業は公募により選ばれ、テーマは、(Ⅰ)「アクティブ・ラーニング」、(Ⅱ)「学修成果の可視化」、(Ⅲ)「入試改革・高大接続」。平成26年度は、全国の大学・短大・高専から250件（うち4件共同申請）の申請があり、厳しい審査を経て47大学等（国立11大学・4高専、公立4大学、私立24大学・4短大）の46件が、8月20日採択された。北海道・東北地方からは本学と仙台高専の2校が選ばれた。本学が申請したテーマ(Ⅱ)「学修成果の可視化」への取り組みは、5年間に8千万円規模の事業計画のもと実施される。本学では、今後グローバルな教育を加速させながら学部学科再編の指針を示し、教育課程の体系化、学生自らが自身の学習目標の設定・達成度評価を行うシステムの構築を目指す。

更なる地域貢献を目指す 八戸市と連携協定締結

8月27日、本学と八戸市は連携に関する協定を締結した。締結式は、八戸市庁舎内で行われ、本学からは藤田成隆学長、橋本都副学長、関秀廣学長補佐、工藤利治事務部長が出席した。



はじめに、八戸市総合政策部政策推進課の中村行宏次長から協定締結に至るまでの経緯が説明され、その後、小林眞八戸市長と藤田学長が互いに協定書に署名し、それぞれ抱負を述べた。今回の協定締結は、本学と八戸市がこれまで行ってきた様々な分野での連携、協力してきた事項について、更なる進展を目指すのが目的である。本学と八戸市は、防災・減災、環境・エネルギー、産業振興・技術開発、教育・人材育成、文化・スポーツ・国際交流の5分野における連携を強化することを確認、更なる推進を図る。本学と自治体との連携協定は、七戸町、青森県に続いて3件目。本学の地域社会への一層の貢献が期待される。

学生チャレンジプロジェクト事業

平成26年度の「学生チャレンジプロジェクト事業」が採択され、7月11日、交付式がメディアセンターで行われた。

この事業は、学生のグループが自由な発想で身近な課題に取り組む、その成果を社会に還元することを目的とする本学独自の助成事業で、学生達の企画に活動費用として最大40万円を助成するものである。第2回目となる今年採択された事業は、右記の9件。来年5月に成果発表会が催され、優秀賞が選ばれることになっている。

平成26年度採択事業

1. 青森県近・現代建築歩き方ガイドマッププロジェクト
2. ソーラーサプライデザイン計画
3. 種差海岸の今を八戸工大から発信!!
4. 空飛ぶペンギンプロジェクト
5. ルームフレグランス商品のデザイン開発
6. プロジェクトOSTY
7. 大学敷地内デザイン化プロジェクト
8. 県産品の機能性を活かす食品開発
9. 電気自動車エコラン競技大会で使用する駆動モータの製作

第18回全国きものデザインコンクール入賞



「2014年第18回全国きものデザインコンクール」(主催:全国染織連合会)に応募した、感性デザイン学科4年の工藤奈葉代さん(黒石商高)が、一般部門CGの部の「日本絹人織織物工業会会長賞」を受賞し、同部門の入選者と同じく4年の田村直子さん(八戸工大二高)が選ばれた。

このコンクールのテーマは、「自分の着たいキモノの図柄・デザイン」。二人の作品は、応募総数約5,000点の中から選ばれたものである。工藤さんは、昨年一般部門手描の部で入選しており、今回さらに上位の賞を手にした。

工藤さんの作品は、9月26日の京都美術館を皮切りに、岐阜県長浜市、新潟県小千谷市、名古屋市、東京都のほかパリでも展示披露される。

日本酒の干支ラベル 大塚奈央美さんのデザインが採用

感性デザイン学科が実施している地元企業とのコラボレーション企画のうち、酒造会社「桃川」が大晦日の年賀酒・正月祝酒、御神酒として販売している干支が描かれた日本酒のラベルのデザインに、1年生の大塚奈央美さん(八戸工大二高)のデザインが採用されることになった。

同学科の学生達がこの企画に取り組むのは、今回で5回目。来年の干支「羊」のラベルは、応募14点の中から大塚さんのデザインが最優秀賞に選ばれた。同社では、今後このラベルに販売促進のための必要な情報を盛り込み、11月下旬から青森県内の酒屋や飲食店等で販売することになっている。また、準優秀賞に選ばれた2年生の田澤葉名子さん(大湊高)のデザインも、地元スーパーのPB商品への採用が決まり、4年生の桃井万葉さん(八戸工大二高)が入賞者にも選ばれた。



アーチェリー個人インカレ出場 第46回夏季個人選手権大会準優勝!



8月19日～21日、宮城県岩沼市のグリーンピア岩沼を会場に、第46回夏季個人選手権大会(インカレ予選会)が開催され、鳥山洋一さん(土木建築工学科4年・六ヶ所高)が決勝トーナメントで準優勝となった。この大会には東北地区の11大学から男子は68名がエントリー。本学チームは鳥山さんを含めた3名で出場し、決勝トーナメントにも進出した。絶好調の鳥山さんは強豪を退けて見事第2位となり、大阪府服部緑地陸上競技場で開催された念願のインカレ「第53回全日本学生アーチェリー個人選手権大会」(9月12日～14日)に出場を果たした。試合は、惜しくも予選敗退となったが、鳥山さんにとっては得難い経験になったようだ。

中国語研修に参加して

8月17日～9月1日/瀋陽工業大学(中国遼寧省瀋陽市)

今回、研修に参加した動機は、これまで学んだ中国語を実際に使ってみたかったことと、反日というイメージがある中国を自分の目で確かめたかったからです。

8月18日から始まった瀋陽での生活は、午前中が語学講座、午後は名所見学というスケジュール。語学講座は、大学で習っていた範囲内の文法だったので意味は理解できましたが、発音には苦戦。しかし、講座の最終日に無事修了証をいただきました。

中国での生活で一番気に入った場所は、実は銭湯です。最初一人で行ったときは不安でしたが、銭湯にいた人達がジェスチャーや筆談で入浴の仕方を教えてくれ、洗剤までサービスしてくれました。ほかの利用客も親しげに話しかけてくれましたが、簡単な返事しかできなくても話せればと悔やまれました。銭湯通いは楽しい日課になりました。瀋陽の街は自分が想像していた以上に発展していて、朝の公園には運動をする市民たち、夜は通りに屋台が並び大勢の人出で賑わっていました。中国人は声が大きくて怒っているのかなと思うこともありましたが、日本が嫌いだという人には一人も出会いませんでした。自分が体験した中国をきちんと伝えていきたいです。

菊地 瞭

(土木建築工学科2年/岩手・水沢高)



角館木匠塾

8月23日～29日、秋田県大仙市の温泉施設「花葉館」で催された「角館木匠塾」に、建築デザイン研究会(ADDL)のメンバー9人で参加しました。今年は、日本大学工学部、秋田県立大学、本学から計48名が参加しました。

大学生に木に関する文化や技術を学ばせることを目的とする「木匠塾」の今年の課題は、花葉館のグランドゴルフ場の表彰台制作と、過去に制作した作品の修復でした。のこぎりの使い方や座彫りなどを大工さんから直接指導を受けたり、取組み方を昨年参加した他大学のメンバーから教わったり、スキルアップになりました。また、大曲の花火大会や角館の武家屋敷の見学等で参加者同士の交流が図られ、とても充実した日々でした。期間中気温の高い日が続き、熱中症が心配されましたが、大きな事故もなく、三大学で協力しあい無事作業を終えました。来年は本学からもっと参加者を増やし、規模の大きなものに挑戦したいです。そして、今回の経験を後輩に伝え「木匠塾」を盛り上げていきたいです。

藤田 勇(土木建築工学科2年/弘前学院聖愛高)



手作り自動車省燃費競技大会



9月13日、宮城県仙台市の宮城県運転免許センターで、「第25回手作り自動車省燃費競技大会」が開催され、動力研究部（部長・中村太郎：機械情報技術学科2年／八戸工高）の2台のマシンが出場した。

この大会は、1周633mの周回コースを平均25km/h以上で20周し、規定時間（30分23秒4）内にいかに燃費よく長く走るかを競う走行会で、東北六県の大学、高専、高校が参加して行っている。今年は、大学・高専部門に4台、高校生部門に7台参戦した。

動力研究部のマシンは、2台とも無事完走。「カブサイシン号」が大学部門で2位（全体3位）、「ビックフット号」が同3位（全体5位）の成績だった。夏休み返上でマシンの調整に励んだメンバー11人は、次の大会への出場を目指している。

青少年のための科学の祭典



8月9日・10日、八戸市児童科学館を主会場に「青少年のための科学の祭典」八戸大会が開催された。サイエンスショーや体験ブースなど62テーマが用意された会場には、2日間で延べ5,600人の子どもとその家族らが来場した。本学では、有志らが子ども達に科学実験などを通して科学の楽しさを知ってもらおうと、毎回ブースを出展し、好評を博している。

本学出展ブース——

スピードガンによる速度の計測・サーモグラフィを体験しよう・ホチキス電子回路をつくろう・とんトンピカピカ（圧電素子）・ソーラーカー試乗展示・折り紙建築をつくろう

大学生観光まちづくりコンテスト2014に応募

建築デザイン研究会（ADL）が今回応募した「大学生観光まちづくりコンテスト」（JTB等主催）は、全国の大学生を対象に従来の観光の枠にとらわれないまちづくりプランを競うコンテストで、北日本（青森県全域）、東日本（富士火口湖町・笛吹市）、西日本（大阪府全域）の3つのステージに分かれて行われました。



ADLの提案は、「海外旅行なんてもったいない！～青森県南に居ながら国際文化体験～」がテーマ。県南地域の八戸市、十和田市、三沢市の3市における「国際化」をコンセプトに、八戸市は「国際色あふれる県南の台所である朝市」、十和田市は「国際アートを見て触れる」、三沢市は「アメリカに一番近いまち」をそれぞれテーマに掲げ、フィールド調査を行ってプランを作りあげたものです。ADLでは、今後も積極的に街に出て様々な活動を続けていきます。

ADL 山口 裕史（大学院建築工学専攻／青森県出身）

青森県総合防災訓練

8月31日、青森県総合防災訓練が、河原木八太郎耐震緑地公園を主会場に、関係機関や市民ら約2,000人が参加して行われた。大地震を想定したこの訓練は、震災訓練と国民保護訓練の2本立てで行われ、本学からも学生29人が国民保護訓練に参加した。



学生達は、被災者役を務めた。有機リン系の毒物が撒かれたという化学テロを想定した訓練は、学生達がいなければ成り立たない重要な訓練だったため、学生達も真剣そのもので除染を受ける被災者役に取り組んでいた。また、本学では、箱型トレーラーの「移動型緊急手術室」を会場に展示、紹介した。今回の訓練への参加は、学生達にとって有意義な経験になったようだ。

杉の間伐に挑戦

9月20日、三戸町貝守地区の山林で行われた住民参加の林業体験に、建築デザイン研究会（ADL）のメンバー10人で参加し、杉の間伐作業や歩道整備を行ってきた。この催しは、三八地域県民局が主催するプロジェクト「県民環境林」の一環で行われたもので、今回が2回目である。前回の8月30日は、フィールドワークや枝打ちを体験した。

この日は、はじめに樹木医の方から木々や植物の説明を受けながら、伐採する杉がある目的地へ向かって森林を探索。間伐を行う場所に到着し、森林組合の方に実際に若木の伐採の仕方を見せてもらった後、アドバイスを受けながら自分達だけで伐採を行った。鋸と格闘しながら幹に切り込みを入れ、なんとか伐採することが出来た。山を下りて昼食を済ませた後には、チェーンソーアートにも挑戦した。「ADL 建築デザイン研究会」という文字を4人で慎重に刻んだ。

初めての伐採体験は斜面での作業に苦労したが、改めて森林保全の大切さを実感し普段経験することが出来ない貴重な体験だった。

ADL 島守 崇史

（土木建築工学科3年・八戸西高）



雪氷研究大会

「雪氷研究大会（2014・八戸）」が、9月20日から23日まで、本学を主会場に開催された。日本雪氷学会と日本雪工学会が合同で開催するこの大会は、東北では仙台について2回目の開催で、例年を上回る430名の参加者があった。今回は学会員向けの研究発表のほか、大規模なポスターセッションと一般市民が自由に参加できる企画セッションが行われ、2014年2月の大雪や北極圏研究が目玉となって会場は大いに賑わった。特に北極圏研究は、北極に関する日本の研究者の総力を挙げた取り組みが紹介され、多くの参加者に貴重な情報を提供する機会となった。本学では、研究発表以外に凍害対策研究委員会を組織して企画セッションと技術展示を行い、23日にはポータ

ルミュージアム“はっち”で開催された市民と子どもを対象にした「雪氷楽会 in 八戸」（雪氷から防災を考える）にも「震災から立ち上がる燕島」を出展、大会は盛会裏に終了した。



八戸工業大学保護者後援会 新会長に苫米地敏昭氏を選出



6月14日、平成26年度保護者後援会代議員会が開催され、役員24名が参加した。はじめに平成25年度の会務報告及び決算報告（監査報告含む）、平成26年度の新役員委嘱並びに予算を審議し、案件は原案通り承認された。また、これまで保護者後援会の運営にご尽力

いただいた家口和寿会長の後任に、苫米地敏昭氏が満場一致で選出された。

代議員会終了後、同役員OB会「蒼穹会」と合同で懇親会が催され、山田政信蒼穹会会長はじめ本学から多数の教職員が出席した。席上、退任された本部役員に藤田成隆学長から感謝状が手渡され、参加者らは大学の近況や学生の課外活動等を話題に和やかに歓談していた。

平成26年度教職員研修会

8月8日、学校法人八戸工業大学の全教職員を対象に、平成26年度の教職員研修会が本学教養棟講義室で開催され、柳谷利通理事長をはじめ約270名が参加した。今年度の研修テーマは、「健診結果を活用した健康管理」。短命県克服のため青森県内で様々な取り組みが行われている中、本法人の教職員にも自身の健康について考えてもらおうと、八戸市総合健診センター健診指導課栄養指導グループリーダーの八木沢優子氏を講師に迎え、「まあいいか！それが人生の分かれ道…健康診断を活用して健康に～」と題し講演会が催された。

「日々の生活の中で、食べ過ぎ、飲みすぎ、運動不足、喫煙、不規則な生活を続けていると、後に努力しても健

康な状態には戻れなくなる」という講師の言葉を、教職員らは自分の健診結果を見ながら熱心に聞き入っていた。途中、椅子に座ったままできる肩こり解消のストレッチ、講演後には希望者に対し血管年齢の測定も行われた。終了後のアンケートには、「生活習慣を見直す良いきっかけになった」「食を改善したい」「運動を始めたい」などの声が寄せられ、健康に対する意識の向上に繋がったようだ。



受賞おめでとうございます

青森県工業技術教育振興会賞「振興会賞」

阿波 稔 教授
(土木建築工学科)



青森県工業技術教育振興会賞「奨励賞」

日本デザイン学会第61回春季研究発表大会「ベストプレゼンテーション賞」

横溝 賢 准教授
(感性デザイン学科)



第36回コンクリート工学年次大会

「年次論文奨励賞」
迫井 裕樹 講師
(土木建築工学科)



大盛況!!夏のオープンキャンパス2014 “未来が、ここから、動きだす。”

「夏のオープンキャンパス2014」が、7月27日と8月9日、31日の3回にわたり開催された。今年もイベントの企画や運営を学生達が担当し、工業大学ならではの「学科体験」、学生スタッフとのフリートークを楽しむ「学生相談コーナー」、女子学生と本音で語り合う「ガールズトーク」、学科の特色を紹介する「学科ギャラリー」などが行われた。

キャンパスは、3日間で400名を超える高校生や保護者で賑わい、終了後「学生スタッフの方の説明が分かり易くて参考になった」「学科体験が楽しかった。ぜひ入学したいです。」など好印象の声が多く寄せられた。



第14回八戸工業大学同窓生の集う会

10月4日、「第14回八戸工業大学同窓生の集う会」が、八戸グランドホテルを会場に開催され、同窓生と教職員を合わせ約100名が参加した。

今回は、はじめに土木建築工学科の迫井裕樹講師と機械情報技術学科の藤澤隆介講師が、「防災技術社会システム研究センターでの研究成果と今後の展開」をテーマに講演を行い、参加した同窓生らが熱心に聴講していた。講演終了後の懇親会では、久しぶりに再会した友人や恩師と杯を傾け親睦を深めていた。宴は終始和やかな雰囲気の中で行われ、最後に校歌を斉唱し散会となった。



国語系資格試験合格者

日本語検定

(準3級) 村上真一 (機械情報技術学科2年/弘前中央高) 岩城匠真 (システム情報工学科2年/八戸工大一高)

(3級) 工藤悠生 (機械情報技術学科2年/八戸工高) 三浦龍司 (機械情報技術学科2年/弘前工高) 三浦慶乃 (バイオ環境工学科4年/三沢高) 長根山侑人 (バイオ環境工学科2年/八戸南高) 古倉あゆみ (バイオ環境工学科2年/秋田・大館鳳鳴高) 金沢将汰 (システム情報工学科4年/十和田工高) 伊藤弘紀 (システム情報工学科2年/山形・米沢工高) 前田慶一 (システム情報工学科2年/八戸工大一高) 菅原弓 (感性デザイン学科2年/岩手・盛岡南高) 和田早紀子 (感性デザイン学科2年/八戸工大一高)

漢字検定

(準2級) 金沢将汰 (システム情報工学科4年/十和田工高) 榎山匠 (機械情報技術学科2年/八戸工高) (2級) 村上真一 (機械情報技術学科2年/弘前中央高) 千葉智美 (感性デザイン学科2年/秋田明德館高)

国家検定「2014年度前期技能検定試験」

機械情報技術学科3級合格者

機械加工普通旋盤作業 中川原史康 (4年/十和田工高)

機械加工数値制御旋盤作業 田村和也 (4年/むつ工高)

機械加工マシニングセンタ作業

(4年) 佐々木渉 (八戸工大一高) 浪岡拓也 (八戸工大二高)

(2年) 佐藤僚太 (宮城・石巻工高) 高橋将志 (秋田・大曲工高) 中村太郎 (八戸工高)

機械保全機械系保全作業

(3年) 秋山航 (光星学院高) 杉本渉 (八戸工大一高) 高屋敷優介 (岩手・久慈東高) 滝澤連 (八戸工大一高) 成田幸樹 (向陵高) 芳賀隼人 (宮城・佐沼高) 浜端智裕 (岩手・種市高) (2年) 飯田駿 (野辺地高) 遠藤翼 (宮城・気仙沼高) 角祐星 (青森南高) 工藤大河 (弘前工高) 西村佳祐 (三本木農高) 浜辺康平 (大間高) (1年) 鈴木友康 (八戸北高) 巴大貴 (秋田・仁賀保高)

第19回2級リビングスタイリスト資格試験

【合格者】感性デザイン学科 佐藤真帆 (3年/岩手・水沢高) 松本彩 (3年/岩手・平館高) 磯島遥 (2年/八戸工大二高) 一戸彩花 (2年/八戸工大二高)

平成27年度入試日程

工学部・感性デザイン学部

		クール	エントリーカード受付期間	面 談 日
A O 入 試	第3クール		平成26年11月17日(月) ～11月26日(水)	平成26年12月6日(土)
	第4クール		平成27年2月2日(月) ～2月6日(金)	平成27年2月13日(金)
	第5クール		平成27年3月2日(月) ～3月13日(金)	平成27年3月19日(木)
入 試 区 分			願 書 受 付 期 間	試 験 日
推 薦 入 試	指 定 校 制	専門高校・総合学科	平成26年11月1日(土) ～11月7日(金)	平成26年11月15日(土)
		普通高校		
	公募制推薦入試 (他大学併願可)		平成26年12月1日(月) ～12月15日(月)	平成26年12月24日(水)
専 門 ・ 一 般 入 試	※1 専門高校・総合学科		平成27年1月5日(月) ～1月26日(月)	平成27年2月5日(木)
	※2 一般	前期	平成27年1月5日(月) ～1月26日(月)	平成27年2月5日(木)
		後期	平成27年3月2日(月) ～3月17日(火)必着	平成27年3月23日(月)
	※2 大学入試センター 試験利用入試		前期	平成27年1月5日(月) ～1月30日(金)
中期			平成27年2月2日(月) ～2月20日(金)	
後期			平成27年3月2日(月) ～3月23日(月)必着	

※1 学業特待生選考試験を兼ねる ※2 前期:学業特待生選考試験を兼ねる
問合せ先 (入試部入試課) Tel : 0178-25-8000 (直通)

行事予定 11月～1月

11月 1日(土) 彩才祭(文化会主催) ～2日(日)
9日(日) オープンキャンパス
15日(土) 指定校推薦入試

12月 6日(土) A O 入試
24日(水) 冬季休業開始
公募制推薦入試

1月 7日(水) 冬季休業終了
17日(土) 大学入試センター試験 ～18日(日)
26日(月) 後期定期試験 ～30日(金)
27日(火) 編入・転入学試験(一般後期)
29日(木) 開学記念日

げんき いっぱい!! さくらようちえん

お花を摘んで、色水遊び。

グローブジャングル、
いっぱい回して~!!

野菜のスタンプ。
おもしろい
模様でしょ?

みんなで育てた野菜だよ。
おいそお!!

船に乗って出発~。

小麦粉粘土だよ。びよーん。

高いはしごも渡れるよ。

折り紙を交互に貼ったよ。
上手でしょ?





第56回 体育祭

8月29日、第56回体育祭が「つかみとれ！勝利の栄光を！」をスローガンに開催され、熱戦が繰り広げられた。恒例の種目「相撲」では、我先にと土俵際を陣取って声援を送り、一勝負ごとに歓声や笑いが満ちあふれた。今年も選手と応援する生徒が一体となり、

本校伝統の礼を重んじつつ、各軍持てる力を出し切った体育祭だった。最終種目まで黄軍（土木建築コース）と青軍（普通科）が競り合ったが、僅差で青軍が3年連続優勝で幕を閉じた。青春真っ只中の生徒達に圧倒された一日だった。

体験入学

8月18日から21日まで、中学生の体験入学が行われた。今年は938名の申込みがあり、普通科と工業科の4つのコースを体験した。高校生による実験や実習の説明に、生徒達は驚いたり笑ったりしながら和やかな雰囲気の中で熱心に取り組んでいた。保護者や引率の先生方も140名余り来校され、本校に対する関心の高さが窺われた。生徒達と一緒に体験した保護者から、「とても楽しい体験であった」「明るく丁寧な説明に好感が持てた」「高校生の自主性ある指導が感じられた」などの感想をいただいた。



プチ高校生

部活動体験・見学会

10月4日、「平成26年度第18回部活動体験・見学会」が開催された。これは、中学生や保護者から本校部活動の練習風景を見学したいという要望に応え、また、これを機会に交流を深めて理解を得ることを目的として、毎年実施しているものである。青森県内はもとより岩手県、遠くは千葉県からの参加者もあり、中学生268名のほか保護者も多数参加して盛大に行われた。参加した中学生達は皆、真剣な眼差しで各部を見学したり体験していた。



全国高総文祭

SLOGAN

創造の花を咲かせよ
聳える筑波嶺
吹き抜ける文化の風

7月27日から31日まで、茨城県水戸市において、「第38回全国高総文祭」が開催された。昨年度青森県高総文祭において最優秀賞を獲得した桃澤勇登君（3年機械・階上中）の作品が、県代表として美術部門に出品された。

全国高総体

SLOGAN 君の汗 輝く一滴 勝利の雫

8月17日から20日まで、千葉県習志野市にある千葉国際総合プールにおいて、「第26回全国高等学校総合体育大会水泳競技」が行われた。本校から佐貫省吾君（3年普通・江陽中）が、1500メートル自由形決勝において第4位に入賞、また、400メートル個人メドレーには三浦晃太君（3年普通・白銀中）が出演し、第8位に入賞した。両名は当初の全国個人ランキングを大幅に上げて決勝に進出し、この模様がNHK総合テレビで放映された。また、7月26日から8月12日までの全国高総体期間中、団体競技に登山、レスリング男子、アーチェリー、ソフトテニス男女、個人にウエイトリフティング、レスリング女子が出演した。



2014.8.20掲載 デアリー東北新聞社提供



1 学年 ミニインターンシップ

10月7日、「ミニインターンシップ」を実施した。このインターンシップは、生徒の自宅が実施場所。掃除、食事の後片付け、布団干しなどの家事を通してその大変さを実感させると共に、家族とコミュニケーションを図ってもらうのが目的である。将来社会人として必要な協調性や勤労精神の習得に繋がることを期待している。



コミュニケーションを図ってもらうのが目的である。将来社会人として必要な協調性や勤労精神の習得に繋がることを期待している。

2 学年 職場体験実習

10月7日から9日まで、職場体験実習を実施した。この実習は、卒業後社会で役立つ人間になるための知識の習得と、進路に向けた意欲を更に喚起させることを目的としている。今回は、自衛隊、消防、病院、幼稚園のほか民間企業57社74事業所の協力をいただいた。また、八戸工大でのマイコンロボット製作に116名が参加し、熱心に取り組んでいた。



3 学年 秋のバス遠足

10月7日、バス遠足を実施した。目的地は新郷村の「間木ノ平グリーンパーク」だったが、前日の台風の影響でグラウンドが使用できないということで、急遽十和田湖に変更し休屋を目指した。生徒達は休屋で、十和田湖のシンボル「乙女の像」の周辺や十和田神社を散策。記念写真の撮影に夢中になっていた。秋の田園風景や奥入瀬溪流の自然に誰もが心を癒されていたようだ。



小型人工衛星打ち上げプロジェクト協力校に認定

このほど本校は、全国工業高等学校長協会の「小型人工衛星打ち上げプロジェクト」の小型人工衛星製作協力校に選ばれた。製作協力校に選ばれた全国9校のうち、東北では本校だけである。

このプロジェクトの目的は、工業高校生に夢を持たせるため宇宙開発研究の一つである人工衛星の製作・打ち上げ・観測の活動を通して技術・理論を学び工業技術教育の充実と発展を図ることである。平成30年の打ち上げを目指して、製

作協力校が担当のサブシステムを設計製作する。本校は、人工衛星に搭載されたセンサーからの信号をデジタル信号に変換し、地上に送信するための時系列データ（テレメトリデータ）を担当する。担当するのは、岩館和希君（3年情報・根城中）、木村勇輝君（3年電子・通信・市川中）、安部卓矢君（2年電子・通信・小中野中）、河村正貴君（2年電子・通信・白銀南中）の



2014.7.12掲載 デーリー東北新聞社提供

4名である。来年3月には、各校が試作した基板を東京に持ち寄り、接続テストが行われる。

宇宙は高校生でも手の届くところにある。本校の校歌にある「神秘を探る宇宙機」の製作にワクワクしている。

全国私立高等学校選抜大会

初優勝アイスホッケー部

9月13日～14日、八戸市のテクノルアイスパークにおいて「第14回全国私立高校選抜アイスホッケー大会」が行われた。決勝まで進んだ本校は、公式戦で初めて駒大苫小牧高（北海道）を3-2で下し、初の栄冠を手にした。終盤に1失点したものの、猛攻をしのぎ逃げ切った。ベストプレイヤーに、ゴールキーパー古川駿君（3年普通・八戸第二中）が選ばれた。



ボランティア活動

■八戸三社大祭

8月1日・3日、長者山新羅神社、神明宮、公益財団法人八戸コンベンション協会等の依頼を受け、運動部の生徒約150名が、民俗無形文化財の八戸三社大祭にボランティアで参加した。暑さの中、時代装束に身を包んでの活動だったが、「元気があってとても良かった、来年もお願いしたい。」というお褒めの言葉を頂いた。地元の祭りに参加し地域との関わりができたことは、生徒にとって良い経験になったようだ。



■24時間テレビ「愛は地球を救う」募金活動

8月30日、青森放送テレビの依頼による「愛は地球を救う」の募金活動による「愛は地球を救う」の募金活動を、1年生2人、2年生3人が、八戸市民の買い物市場「八食センター」で行った。1年生は初めての経験だったが、2年生のアドバイスを受けながら、買い物客で賑わう市場で元氣よく募金を呼びかけた。



カレッジコース 「つくばイノベーション」

8月11日～13日、つくば市において、科学の奥深さや課題解決の発想を学ぶ「イノベーションキャンパス in つくば」が開催された。本校から泉山雅貴君（八戸東中・写真右）と西條成君（八戸第二中）が参加し、それぞれ別のグループで課題研究に取り組んだ。泉山君は、「i p s細胞について詳しく学ぶことができた。3日目のプレゼンテーションで、自分たちのグループが考えたプロジェクトが高い評価を受け、特別賞を受賞できたのが嬉しい。」西條君は、「宇宙飛行士の講演が印象的だった。また、枠にとらわれない発想で活発に他県の高校生と議論ができ、この3日間で大きく成長することができた。」と感想を述べていた。



夏の学外学習

情報ビジネスコース 「インターンシップ」

2学年情報ビジネスコース生を対象に、夏ゼミ期間中の2～3日を利用してインターンシップを行った。目的は、インターンシップを通して職業観を身につけさせるとともに、希望進路達成に向けしっかりと意識を持ってもらうためである。インターンシップの事前指導として、7月22日、ジョブカフェあおもりの方を講師に、働くことの意義や職場での礼儀作法などを学んだ。貴重な機会を与えて下さった13の企業の皆様、ありがとうございました。



ボランティア活動

鮫・燕島観光ガイド

8月9日、「鮫ボラ」が行われた。この活動は、閉校した八戸南高校から引き継いだ「鮫・燕島高校生観光ボランティアガイド」で、今回が2回目。事前研修で燕島周辺と種差海岸の歴史・自然・文化について学び、燕島40名、種差海岸7名に分かれ、10時から14時まで午前午後の2回ガイドを務めた。

生徒達は、震災の写真やクイズ形式で説明するスケッチブックを用意するなど、それぞれ工夫を凝らしてガイドに挑戦した。観光客からの質問にも丁寧に答え、ガイドを終えた生徒達はすがすがしい笑顔に満ちていた。福島県や神奈川県の方から写真とガイドのお礼状が届き、鮫ボラへの挑戦は貴重な体験と素敵な思い出になったようだ。



陸前高田仮設住宅訪問

7月26日、陸前高田市の仮設住宅へ行き、住民にイラストを提供するボランティア活動を行った。夏休みに実施しているこの取り組みは、今年で3回目。参加した生徒は、美術コースの2年生が12名、カレッジコースの3年生が9名、写真部の1年生が4名の、合計25名。今回持参したイラスト作品は、仮設住宅がある米崎小学校のグラウンドに展示した。188点のイラストはいずれも好評で、1時間ほどで全てなくなりました。

この日は、手作りパンをふるまうボ

ランティアも行われており、仮設住宅前の空き地に、パンやかき氷、バーベキューを楽しむ人々であふれる中、生徒達は住民の方々に積極的に話しかけたり、子ども達と一緒に遊んだりしながら交流を深めた。

生徒からは、「私ができることはとても小さなことかもしれないけれど、子ども達の笑顔を思い出して、小さなことからコツコツとやって行ければと思いました。」「気に入った作品をもらっていく子ども達の姿や、真面目な様子で作品に見入る人を見てみると、美術を学んでいて良かった、もっと美

術について勉強しなければと思いました。」という感想が挙げられた。





全国高総文祭 2014

いばらき総文祭

7月27日～31日、茨城県水戸市で行われた「第38回全国高等学校総合文化祭」に、美術コース3年の新山智子さん（八戸第一中・写真左）の「それぞれの年月」と佐藤晴香さん（湊中）の「朝の光」の2点が、青森県代表として出品された。27日に茨城県近代美術館で全国展を鑑賞し、二人は県民文化センターで開会行事に参加した。東京藝大教授で人気アーティストの日比野克彦氏が、自身の作品制作について講演した。また、講評の際には、出品された作品に丁寧な講評を行い、生徒のほうからも多くの質問が出るなど、充実した内容だった。翌日は交流会が行われ、簡単な制作実習の後、全国展の作品を鑑賞して、お互いに意見を述べ合った。自分の作品を解説し、他者の作品に対する感想を述べることで、制作に対する考えを深める良い機会となった。



八戸工大 SSP



恒例となった「HIT-SSP（八戸工業大学サマー・サイエンス・プログラム）」が、7月23日～25日の3日間開催された。

今年のSSPは、「3D-CAD」「スマホアプリ講座」「美しい橋、丈夫な橋」「五感と錯覚」「熱の超伝導」「自動車の構造」の6講座が開講され、1・2学年の生徒98名がそれぞれの講座に分かれて参加した。最終日の成果発表会では、グループ毎に作成した資料をもとに、プレゼンテーションを行った。

参加した生徒達の感想は、「大学での講義や実験は楽しく、もっと知りたいことが増えた。」「高校では学ぶことのできない知識を得ることができて大変貴重な体験となった。」など、充実したプログラムに手応えを感じていたようだ。

大学連携授業



美術コース 「林海象先生による 特別講義」

9月9日・10日、東北芸術工科大学映像学科の林海象教授を招いて特別講義が行われた。林先生は、1986年『夢みるように眠りたい』で監督デビュー後、多くの作品を手掛けている映画監督である。今回の短編映画制作の実習は、映像科志望の生徒にとってはまたとない機会となった。

林先生からシナリオの書き方を学んだ生徒達は、5～6人の班で2分の短編映画に取り組み、「ラブコメ」「ミステリー」「ホラー」など様々なテーマで撮影を行った。林先生から屋内と屋外両方で撮影するようアドバイスを受け、絶好の撮影日和の中、生徒達はあちこち撮影場所を探しながら楽しそうに撮影していた。鑑賞会は大いに盛り上がり、生徒達は撮影に苦労した分、完成した作品を前に充実した表情を浮かべていた。

中国語研修



8月17日から9月1日までの16日間、八戸工業大学の姉妹校である瀋陽工業大学（中国遼寧省瀋陽市）で行われた語学研修に、本校生徒6名が参加した。

研修では、中国語を学ぶほか、瀋陽の歴史的建造物（張氏帥府や北陵公園、中街など）や博物館などを見学し、中国の歴史の壮大さに触れることができた。当初は中国語の発

音や声調に苦戦している生徒もいたが、先生の熱心な指導のおかげで楽しく勉強ができ、自己紹介や初歩的な日常会話ができるようになった。生活習慣の違いに戸惑いながらも現地の方と覚えてた中国語を使って会話し、交流を深めていた。異文化に触れる貴重な体験を積むことができ、実り多き研修であった。

なかよしさい



「やったー上手に釣れたあ。」



「わあ～、いかずきんズだ！
一緒にあそぼう♪」



～年長組の作品～

「ジャングル探検隊!!」



「こんなに大きなシャボン玉ができたぞ。」



「風に乗って
飛んでいって～」

「紙飛行機大会」

なかよし祭の前日、飾り付けが終わった展示室に入った子どもたちから、「おおっ」「わあー」と感嘆の声があがった。子どもたちは、自分で完成した作品を展示室に運んだが、全員の作品が並んだ部屋を見ていなかったの、模様替えをして見違えるようになった部屋の様子に驚きもひとしおだったようだ。当日は、自分の作品の前で自慢気な様子の子どもたちや照れくさそう

にしている子どもたちの姿がとても微笑ましかった。積極的にいろいろなコーナーに家族や友達を案内する子もいた。卒園児達もたくさん訪れ、久しぶりに再会した友達と思い出話を花を咲かせていた。

今年も、それぞれの思いを胸に集まって来てくれた人達の笑顔で溢れた園の一日が、無事終了した。感謝。



みどりの風

マルとバッテン



(すみれ組 琉成くんのお母さん)
中須賀 ゆりえさん

私の息子は、満3歳からお世話になっていますが、毎日嬉しそうに通う息子が今ではたくましく見えます。入園前の息子は、食事中じっとしてられず、少し食べては席を離れた座って食べるを繰り返す子でしたが、入園してからはきちんと座っていただけるようになりました。「ちゃんと座っていて、おりこうさんやなあ」と言うと、「ご飯の時は、座しているとマルで、立ったらバッテンなんだよ」と教えてくれました。片付けが終わると

「マル」着替えのあとも「マル」と言います。「マル」をもらうのがとても嬉しいようで、片付けをしようとしないうちに「それはバッテン」と言うと「マルがいい!」と言って片付けをはじめます。一人で着替えが出来た息子に「大きいマル」と言うと「ヤッター!」と大喜びです。下の子もお兄ちゃんの真似をして「マル」をもらおうと頑張っています。息子達のこれからの成長がとても楽しみです。

息子の好きな本



私は、幼い頃絵本を読む機会があまりなかったせいか、今でも本が苦手です。だからこそ、息子達には本を好きになって欲しいと思っていました。息子が幼稚園に入る前は、親の好みで絵本を選び読み聞かせをしていましたが、成長と共に息子の好みが変わってきました。息子が今夢中になっている本は、恐竜や昆虫、働く車などの図鑑で、毎週欠かさず幼稚園から借りてきます。図鑑は読み聞か

せできないなと思っていましたが、息子は喜んで眺めています。寝る前には必ず「本読んで」と目をキラキラさせて布団の上で待ち構えています。恐竜を指さして「これは何という名前?」「首が長いね」と言いながら眠ってしまうこともあります。最近は、物語にも興味を示すようになりました。息子は確実に本が好きになっています。沢山の本に触れさせてくれるさくら幼稚園に感謝です。

ようちえんってこんなところ

年長 サマーフェスタ



「頑張り・仲良し・元気 3つ合わせてさくら幼稚園良い子の火」

すいかわり大会



「甘くておいしい〜☆」

園児募集

満3歳児
3歳児
4歳児
5歳児

願書受付(定員になり次第締切)

11月1日より

- 完全給食
- 通園バスあり
- 預かり保育あり



年長 じゃが芋掘り



「こんなに沢山採れたよ。」

海浜保育



「海って気持ちいいな〜!」



理事会・評議員会

学校法人八戸工業大学は、下記の通り理事会及び評議員会を開催して各案件について審議を行い、それぞれ原案通り承認された。

◇7月18日 理事会

- ・「学校長の選任及び任用に関する規程」改正に関する件

◇9月12日 理事会・評議員会

- ・八戸工業大学第二高等学校「学則」変更に関する件

◇10月8日 理事会

- ・八戸工業大学大学院工学研究科「土木工学専攻」名称変更に関する件
- ・八戸工業大学大学院「学則」変更に関する件

表紙 さくら幼稚園 秋の遠足（南郷区カッコーの森エコーランド）
 裏表紙 さくら幼稚園 年長組 秋山光希くんの作品
 タイトル「ももたろうのおにたいじ」